

## インレー湖道中記 その1

みなさんこんにち。あっという間に11月も終わりですね。雪も降り、寒い日が続いていると思います。こちらはというと、相変わらず日中は30℃を超えますが、朝夕は20℃を下回るくらいまで冷えるようになりました。3年目にして初めて『寒い』という感じがしています。この常夏に慣れた体で北海道に戻れるのだろうか…最近少し心配です。

さて、この秋ミャンマーでは祝日の取り扱い方が変わりました。今まで祝日の振替休日がなかったのですが、それができたのです。しかも、土日どちらかにかぶったら、それを翌週月曜日以降に振り替える。そのため10・11月で週に5日学校に来たのは2週だけという事態になりました。例年秋には「ダディンジュ」「ダザウモン」という2つの連休があるのですが、そこも振替休日で5連休・4連休の大型連休になってしまいました。そこで、この機会を利用してタイトルにあるようにミャンマー北東部の『インレー湖周辺』へと行ってきたという訳です。

この地域は標高が高く、亜熱帯のミャンマーにありながら温帯の植物が生えている地域です。そのため農業に適しており、ミャンマーの穀倉地帯としても有名です。ヤンゴンから飛行機で1時間弱。インレーの空港へ木に到着。宿は湖畔に取ったのですが、まずは空港北西のピンダヤを目指しました。道中の景色を見ると…確かにヤンゴンとは別世界。落葉広葉樹がたくさん生え、そして道沿いにはたくさんの畑。訪れたのは 11 月上旬だったので、ちょうど収穫期。ジャガイモや米など沢山の収穫作業を見ることができました。



そんな道中、畑の中に並ぶ箱を発見。近づいてみるとミツバチの巣箱です。実はミャンマー産の蜂蜜はここ数年日本への輸出が増加しており、近年はハチミツ輸入相手先上位に入ってきています。ただ、雨季があるため水分が多い、熱帯の花の蜜のため香りが強いなどの理由で、他の外国産蜂蜜とブレンドされて流通しているようです。畑は収穫期に入りましたが、まだまだ野山には花がいっぱい。ミツバチたちも元気に飛び回っていました。日本に帰る前に見ることができて良かったです。

こんな感じであちこち寄り道しながら本日の目的地『シュエウーミン洞窟寺院』に到着。中々の数の階段を上ったその先にあるパゴダです。天然の洞窟の中にあるパゴダと岩壁に無数にある釈迦像の群は、荘厳さと共にある種の畏怖を感じさせる、そんな神秘的な空間でした。

というところで紙面が終わってしまったので、残りの道中の報告はまた次回に。来月号をお待ちください。

